

令和元年度 秋田市在宅医療・介護連携セミナー

日時：令和元年12月1日（日）13：30～16：30
会場：秋田市文化会館 5階大会議室
目的：在宅医療と介護の連携を促進するため、それぞれの職種がお互いの役割を知り、顔の見える関係を構築する。

参加者 84名
（医師／歯科医師／薬剤師／看護師／リハビリ専門職／病院相談員／介護支援専門員／包括職員／福祉施設職員／市役所・事務局）

基調講演 「多職種による高齢者の意思決定支援」

講師 秋田大学大学院 医学系研究科
保健学専攻 専攻長 臨床看護学講座
教授 安藤 秀明 氏

グループワーク 「楽しく実践してみよう！」

コーディネーター 秋田大学大学院 医学系研究科
保健学専攻 専攻長 臨床看護学講座
教授 安藤 秀明 氏



痛みがない
家族の負担にならない
家で最期を迎える
お金の問題を整理しておく



信頼できる
主治医がいる
自分の身体が
どう変わって
いくかを知る
詳しくは iACP の
ホームページで！

iACP Institute of
Advance Care Planning
<https://www.i-acp.org/>

「もしバナゲーム」とは？

もし、あなたが治療困難な病気で「あと半年から1年の命です」と言われたら、あなたは何を大切にしたいですか？もしバナゲームはカードに書かれた言葉から、自分が何を大切と思い、人生の最期をどう過ごしたいのか考えることができるゲームです。

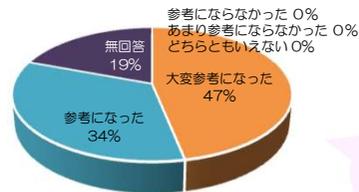
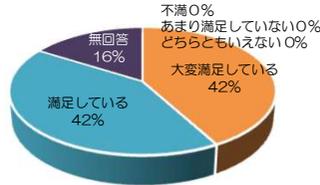
連携センター内に、もしバナゲームのカードを保管してあります。ご興味のある方はご相談ください！



令和元年度「在宅医療・介護連携セミナー」アンケート結果より（一部抜粋）

【もしバナゲームについて】

ゲームを行って試みの満足度 今後の生活や業務の参考になったか



自分の考えを深め、様々な事を考える機会になって、本当に良かった。

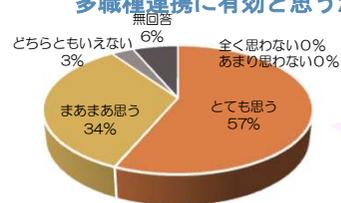
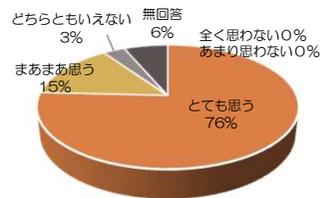
今まで意識していなかった自分の考えに気づかされた。

ゲームを通じてスムーズな意見交換ができた。

他者との価値観の違いに驚いたと同時に、新たな自分の価値観を増やせた。

【セミナー全体について】

多職種連携の推進が必要だと思うか このようなセミナーは多職種連携に有効と思うか



こういう研修を敬遠している方もいるが、今回はとっつきやすく、参加しやすかった。

参加者の顔ぶれが固定している印象。今後は、より多くの方々に関わりを持てるようになればと思う。

重い内容を楽しく話し合えるいい機会だった。交流も自然で連携が推進されたと思う。

- ・ 多職種連携推進の必要性や、連携推進のために本セミナーが有効だと感じている方が9割、親睦の機会や情報共有の仕組みが必要と回答した方が約8割を占めた。
- ・ 今回の参加者はさまざまな研修に積極的に参加している方が多く、参加者の顔ぶれが固定しているという声が多かった。